

奉政報告第四百九號

明治廿八年十二月七日

奉天軍政委員小山秋作

關東總督府參謀長落合豐三郎殿

一、清民女子銃傷事件、檢証

十二月二日新民府軍務署ヨリ奉天兵站司令部ヲ經テ老辺附近ノ土人女子一名日本兵ニ銃殺セラレ新民府知府檢案スベキ付立會ノ爲ノ貴署ヨリ憲兵派遣アリ度旨申越セシニ因リ翌三日早朝憲兵曹長秋山定治郎同上等兵の場直次ヲ派遣セシニ同人等ハ新民府知府沈金鑑ノ立會ヲ以テ檢証ヲ爲シタルニ銃殺ニ非ズレテ銃傷ナリシが尙の場上等兵ハ加害者ノ搜索ニ從事シタル後歸署セリ其復命ノ大要左ノ如シ

(一) 事件發生地ハ老辺ノ北方約八清里ノ邱家恒路子ニ於ル

ナル者ノ居宅ニシテ被害者ハ五六日前ヨリ同家ニ帰寧シ居タル
 ■ノ妻 ■(十七年)ナリ

(2)現場ニ於テ事件ヲ目撃セリト云ヘル村長 ■(五十二年)
 ノ供述ニ依ルニ十一月廿二日午後一時頃日本兵三名(其二名ハ銃ヲ
 携フ同家ニ入り飼雞ヲ搜索中飼犬ノ乱吠ニ逢ヒ兵士一名
 之ヲ射殺セシニ其彈室内ニ透入シタルナリト

(3)當時室内ニ居合セタル女子 ■(二十一年)全 ■(十九年)ノ供述
 ニ依ルニ日本兵三名庭内ニ入ルヤ自分等ハ ■ト共ニ戸ヲ鎖シ
 テ室内ニ潜シ急心ナ一弁ノ銃声ヲ聞クト同時ニ彈丸ガ ■ノ左
 乳房上部ヲ貫通セシヲ見タリト

(4)戸主 ■ノ供述ニ依ルニ日本兵ガ室内ニ入りシ形跡ヲ認メ
 ドト

(5)右ノ室内ヲ檢スルニ前面東方ノ窓下厚四寸ノ土壁ニ銃丸貫通

、穴口アリ後面ノ土壁ニ着弾ノ痕迹アリ三十年式歩兵銃ノ彈丸一個ヲ奔見証據物件トシテ持歸レリ

(6) 被害者

ハ被害地ノ東方約八請里ナル四方台

ニ移シ療養シツアリ十月二十三日付歩兵第廿八聯隊第三大隊附陸軍一軍軍医窪田二郎ノ檢案ニ依リ休業十八日ヲ要シ治後機能障害ヲ貽リルモノトナレリ

(7) 被害者

ハ供述ニ依ルニ自分ハ當時屋内水甕ノ傍ニ匿

シガ銃声ヲ聞キ後ハ人事不省ニ陥リタリト其綑帶ヲ解キ傷起ラ檢スルニ左乳房上根部ヨリ左後腋第ニ助間部ヲ貫通シ射入口ハ左指大射出口ハ拇指大ナリ傷後經過ハ良好ナル者ト認ム

(8) 以上ノ實況ニ依ルニ加害者ハ吠犬ヲ射撃シタル彈丸ニ因リ屋

壁ヲ貫キ過失傷人罪ヲ犯スニ至リシ者ト思料ス

(9) 加害者ニ付キ村長^ノ陳述ニ依ルニ當日一名ノ日本兵が
 奔銃セシ時他二名ハ馳^リ来リ婦人ノ吐血苦悶セルヲ見テ驚
 キ三名一齊ニ東北方ニ逃走セシ依リ自分ハ乘馬ニテ追蹊セシ
 北
 が彼等ハ七奔計リ奔射シタルヲ以テ自分ハ近接スル能ハズ村ノ
 方十八清里ノ田間迄追蹊シタルモ遂ニ追及ムルヲ得ズシテ引
 返セリ

(10) 右ノ陳述ニ依リ^ノ上等兵ハ十月四日四方台步兵某廿八聯隊
 第三大隊附^ノ軍医同某中隊某一小隊某一分隊^ノ歩兵
 軍曹等ニ就キ尋問シタルモ此等ノ諸隊ニテハ再ニ嚴査セシモ加害
 者ト認ムベキ者ナキ旨答フ又村長^ノ就キ尋問セシニ駐屯
 諸兵ハ規律嚴正ニテ一般ニ靜肅ナル趣答タルノ外加害者
 ノ手拭トスベキ者ナシ

(11) 十月五日^ノ上等兵ハ四方台ノ北方八清里ナル萬金台駐屯

歩兵第七聯隊本部に至り加害者ヲ捜査セシニ當隊
ニテモ嚴重ナル取調ヲ遂ゲシモ決シテ此ノ如キ非行者ナキ旨大隊
長ヨリ明言セラル其他同村ノ東北方約五清里ナル四大子ニ歩兵
第七聯隊本部ヨリ附近ノ部落ニ其支隊ノ駐屯アルモ事
件發生後已ニ二週間以上經過シタル後ナルヲ以テ各隊共各自
回護掩蔽タルノ嫌アリ容易ニ檢挙シ得ザルヲ以テ一先引揚
ケ歸署セリ

二、安永通譯横死ニ関スル談判ノ經過

奉政報告第七百四號報告以後安永通譯横死事件ニ関シ清
國衙門ニ向ヒ二回ノ談判ヲ開キシ処清官側ニ於テハ當方ヨリ告知シ
タル外確實ナル事實ノ証明ヲ有セザルニ付約二週間ノ猶豫得
特使ヲ派シテ事實ヲ取調ベタル上何分ノ決答ヲ爲サシメ度旨申出デ
シニ付其意ヲ諒シ當署附憲兵特務曹長原田正太郎ニ通譯

憲兵各一名ヲ附シ清國官吏二名ト共ニ十二月三日滿地出發通化地方
ニ出張セシメタリ